別紙

持続可能な連携型中高一貫教育のモデルプランの形成にむけて

北海道鵡川高等学校　学級数６　（校長　三村　素道）

Ⅰ　実践テーマの趣旨

本校では、平成 28 年度に「鵡川高校未来プロジェクトチーム」を設置し、学校課題の明確化（短期的な課題、中長期的な課題）、課題解決のための方策等を確認し、本校のグランドデザインを作成した上で、「身に付けさせたい資質・能力」及び「育成したい生徒像」の明確化を図るとともに、「重点目標」、「経営方針」及び「教育課程編成の方針」等について見直しを図った。

人口減少・少子高齢化が急激に進む現在、それぞれの地域において、その特徴を活かした自立的で持続的な社会を創生することが求められており、地域創生においては高校魅力化の果たす役割は大きなものがある。

本校では、地域の教育資源や人材を活用し、地域全体をキャンパスとした学びを通して、地域社会に貢献できる生徒、主体的にたくましく生き抜くことのできる生徒を育成している。

Ⅱ　実践の内容

１　地域との協働体制について

⑴ 高校魅力化コンソーシアムの設立

学校と地域の双方が、連携・協働するための組織として地元自治体、企業、各種団体、小中学校・大学等を含む 28 団体 52 名で６月 29 日に設立した。役員会及び事務局は、次年度より学校運営協議会を兼ねる方向で準備を進めている。

⑵ 高校魅力化コーディネーターの配置

北海道高等学校「高校生対流促進事業」の指定を受け、道費により６月１日に発令した。地域と学校を結びつけ各種事業を円滑に運営することを業務としている。

２　教育活動について

⑴ 地域課題解決型探究学習「むかわ学」

コンソーシアムの支援により、地域人材による講演や、地域産業や施設等でのフィールドワークを通じて学んだ内容を踏まえて、SDGs の観点を通して、グループで地域課題を見出し、課題解決型探究学習を行っている。３学年では、地域住民や議会等に向けて課題解決のプレゼンテーションを行う。なお、小中学校とは、ふるさと学習という形で教育課程の接続を図っている。

むかわ学における化石採掘

⑵ 生徒の特性や能力を伸長させる学校設定科目「チャレンジスタディ」

生徒の興味・関心や多様な進路に応じた学校設定科目として実施している。ICT を活用しアドバンスト（進学個別対応）、グローカル（地域人材の育成、学び直し等）、スポーツ・アート（野球、吹奏楽）の３グループにより少人数指導を行っている。

⑶ 「デュアルシステム」によるキャリア教育

コンソーシアムに所属する各種機関・団体等の協力により、グローカル・グループにおいて、１・２学年全員が職業教育の一環として、２～３ヶ月の職場体験を年２回程度実施する。

⑷ 地域みらい留学 365

北海道高等学校「高校生対流促進事業」により、本州から高校２年生の「地域留学生」を受け入れることで地域との多様な関わりを通じて地域創生につなげることを目標に、今年度は、留学生を募集し、次年度より受け入れることになる。

3　地域における各種教育機関との連携

(1) 連携型中高一貫教育

連携先の鵡川中学校とは「むかわ学」及び「チャレンジスタディ」を通して教育課程の接続を図っている。また、中高連携学習や、中高ボランティア、中高講演会という形で、異年齢集団による学びを実践している。

(2) 「むかわスタンダード」の作成

地域での学びの保障及び家庭や地域からの協力を得られるように、地域で学ぶ小学生から高校生まで 12 年間で子どもたちに身に付けてほしい知識・技能等（国語・数学（算数）・英語・むかわ学）に係る資質・能力のスタンダードを現在作成中である。

4　地域における活動

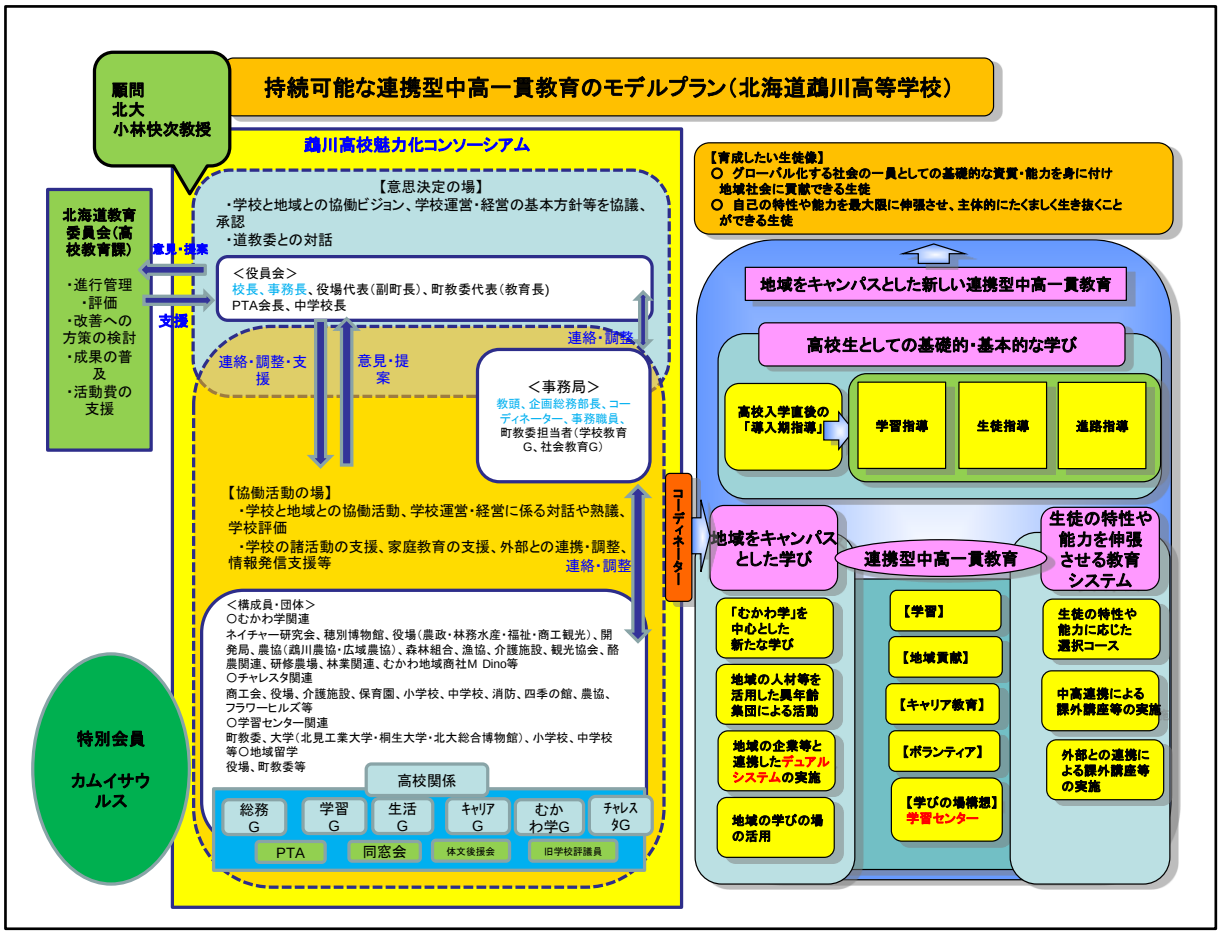
(1) 地域における「学習センター」の設立

コンソーシアムの支援により、ICT を活用し、子どもから大人までの学びの場として設立する計画を進めている。地域おこし協力隊複数名を学習スタッフとして配置し、学習の支援を行う予定である。

(2) 地域スポーツの活用

列車の関係で 17:30 までしか部活動ができないため、地域のスポーツ組織等（バドミントン・ソフトテニス・サッカー）に生徒が個人として参加する形をとっている。また、野球部の指導スタッフは町の支援により、町職員である監督及び２名のコーチを配置している。

中高合同ボランティア

(3) 町民向け英会話スクールの計画

町内小中高校の英語教員を中心として町の ALT と協力し、町民向けの英会話スクール「English Saloon in MUKAWA」を設置する計画をしている。